

【会議録】

| | |
|----------------------|--|
| 会議名 | 第3回内部情報系システム仮想化基盤更新委託事業候補者選考委員会 |
| 開催日時 | 令和2年2月27日（木）午前9時00分から午前10時50分まで |
| 開催場所 | 港区役所9階 915会議室 |
| 委員 | <出席者> 5名 水野委員長、北本副委員長、内田委員、山辺委員、川口委員 |
| 事務局 | 総務部情報政策課長、情報管理係 |
| 会議次第 | 1 開会 2 第二次審査実施概要について 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について 5 閉会 |
| 配付資料 | 【席上配付資料】 資料1 第二次審査提案説明（プレゼンテーション及びヒアリング）概要 資料2 採点基準表（二次審査） 資料3 第一次審査・第二次審査集計結果（※採点終了後、机上配布） 参考資料1 提案説明における注意事項（事業者提示用） 参考資料2 第二次審査評価集計結果（※採点終了後、机上配布） 参考資料3 第一次審査集計結果 |
| 会議の結果及び主要な発言 | |
| (発言者) | |
| 委員長 | 1 開会 (開会の挨拶) |
| 事務局 | 2 第二次審査実施概要について (事務局から資料1、資料2及び資料3について説明) |
| 事業者番号1 委員長 B委員 | 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 (事業者番号1入室) (事業者番号1によるプレゼンテーション) ヒアリングを行います。質問はありますか。 3点質問します。1点目、移行について、移行ツール利用の際のデメリットとして、長時間の停止とありますが、どの程度停止しますか。また、停止に対する回避策を教えてください。2点目、BIOS等のパッチを当てるとき、どのような手順で行いますか。3点目、暗号化は基本的にすべて適用可ということですが、適用し |

| | |
|-------------------------|---|
| <p>事業者番号 1</p> | <p>ないものはありますか。</p> <p>1 点目、通常の仮想マシンは1 営業日程度で移行できます。4 テラバイト以上のサーバーは丸 1 日程度必要です。回避策として、内部情報系システムは平日に使用していない時間帯があるので、基本的に平日に移行します。ただし、1 サーバー10 テラバイト程度のシステムは、2、3 日データ移行に要するので、長期休みや連休で移行します。</p> <p>2 点目、B I O S やファームウェアのアップデートの方法として、サーバーの予備環境に移動させて、バージョンアップしたい箇所を空にしてから、仮想 O S は停止せずにアップデートを行います。また、サーバーには通常稼働系の他に待機系が存在します。この待機系に適用して、そちらに仮想マシンを移行し動作確認を行い、安全確認が取れたら通常稼働系に適用します。ストレージ側のファームウェアについても、2 つあるものを交互にアップデートを行い、無停止で実施します。</p> <p>3 点目、暗号化を適用しない場合について、暗号化することで性能劣化が起こるケースでは適用しません。しかしながら、暗号化を適用した場合、ストレージ側のボトルネックは CPU になりますが、CPU の利用状況は通常 5 % から 10 % なので、性能劣化を理由として暗号化を適用しないということはほぼあり得ません。</p> |
| <p>D 委員 事業者番号 1</p> | <p>暗号化に関連して、復号化できない場合はどうしますか。</p> <p>今回の暗号化はストレージ全体にかかっており、ソフトウェア的な暗号化です。物理的にデータを抜いたとしても、すでに暗号化されたフォーマットでしか読めない、復号化できないということはありません。</p> |
| <p>D 委員 事業者番号 1</p> | <p>暗号化装置自体に不具合があって、データを戻せない場合はどうしますか。</p> <p>L T O テープでバックアップを行う予定なので、L T O テープのデータを他の筐体に戻す方法があります。</p> |
| <p>D 委員 事業者番号 1</p> | <p>プロジェクトリーダーは、本事業に並行して他のプロジェクトに入りますか。</p> <p>来年度、プロジェクトリーダーはクラウド構築業務専任で対応します。本事業の山場である 5 月、6 月の計画立案時には、様々なベンダーと調整し、その回答を集計するので、遅れが出そうであればプロジェクトリーダー配下に一時的に要員を増やすことも想定しています、プロジェクトリーダーの専任性、妥当性は問題ないと考えます。</p> |
| <p>C 委員 事業者番号 1</p> | <p>5 ヶ月の移行期間は既存のシステムと比較して妥当ですか。また、移行で不具合が生じた経験があれば教えてください。</p> <p>5 ヶ月の移行期間の妥当性について、今年度、区の行政情報システム仮想化基盤で同様の移行を行い、5 ヶ月間でサーバーを 100 台以上移行しました。行政情報システム仮想化基盤では検証環境を日中帯に移行し、本番環境を休日に移行しました。今回の内部情報系仮想化基盤では、移行対象の仮想マシンが約 130 台あり、行政情報システム仮想化基盤に比べて平日に移行可能と考え、5 ヶ月の移行期間を妥当としています。</p> <p>また、移行不具合の経験については 2 点あります。1 点目は大容量データのサーバーを移行した際、ツールを使用し仮想マシンのイメージデータを取得して移行する流れでしたが、サーバーを 4 台平行でイメージデータを作成する段階で、4 台の移行元のサーバーから大量のデータが移行先のサーバーに流れ込み、ネットワーク不具合でイメージデータを作成することができませんでした。2 点目はクラスターサーバーを移行する際、移行先で想定していた容量よりも大きなデータが</p> |

| | |
|--------|--|
| E委員 | 必要になり、移行に不具合が生じました。そのため、移行先には移行元データより少し余裕がある大ききのデータ容量の器を作成して、移行を行っています。 |
| 事業者番号1 | <p>主管課との調整とはどのようなことをやりますか。また、個別ベンダーとのやり取りは職員を介さずに進めるとのことですが、本当に可能ですか。</p> <p>主管課との調整について、基本的には打ち合わせの日程調整、場所確保を区にお願いします。依頼事項や打ち合わせで確認する内容は当社が作成し、持参します。打ち合わせの内容は情報政策課と事前に協議します。また、個別ベンダーとのやり取りは基本的に当社で行います。ただし、定期的に打ち合わせを設け、そこで内容の共有、リスクに関する事前相談等を行います。個別ベンダーとの決定事項等は区に共有します。</p> |
| A委員 | ディスクの縮小は経験上ありますか。 |
| 事業者番号1 | 経験上、最初の段階で縮小する可能性はありますが、各ベンダーは設計を基にディスクの容量の申請をするので、縮小されることはあまりありません。 |
| 事務局 | <p>それでは事業者番号1の提案説明及びヒアリングを終了します。</p> <p>(事業者番号1退室)</p> |
| 事務局 | 4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について |
| 委員長 | (事務局より、集計結果発表) |
| B委員 | 最終評価を終えて、意見交換をお願いします。 |
| C委員 | 質問によく答えられていました。テスト環境が整備されており、不具合は起こりにくいと思います。 |
| E委員 | 区のシステムをよく理解している印象を持ちました。全体像をよく把握しており、実現性があると思います。 |
| D委員 | 提案内容の実現性を高く評価しています。説明の内容に矛盾はありませんでした。 |
| A委員 | 事業者番号1は区の他の委託事業も行っており、そこでの課題を今回の提案で解消しているので、実現性の心配は不要だと思います。 |
| 委員長 | 事業者番号1はこれまでの経験を踏まえ提案しており、回答も信頼できます。不具合や移行対応に関しても優れています。事業者番号1が選定されて細かい不具合が発生した場合、PDCAサイクルのように次に活かせる体制を組んでもらいたいと思います。 |
| 各委員 | <p>それでは、事業者番号1を事業候補者とすることでよろしいでしょうか。</p> <p>異議なし。</p> |
| 委員長 | <p>5 閉会</p> <p>(閉会の挨拶)</p> |